

気をつけよう！ デング熱 と 媒介蚊（ヒトスジシマカ）

■ デング熱について

●デング熱とは

- デングウイルスによる感染症です。
- デングウイルスを保有した蚊が、ヒトを刺して感染するため、ヒトからヒトへ直接感染することはありません。



- 主に、東南アジア、南アジア、中南米などの熱帯や亜熱帯の地域で流行しており、日本国内では、海外の流行地で感染し帰国後発症する症例（輸入症例）が毎年200人前後報告されています。
- 国内では、過去60年感染した症例の報告はありませんでしたが、2014年8月以降、東京都立代々木公園等で感染したとみられる症例が国内で発生しています。

●媒介蚊（ウイルスを運ぶ蚊）

- **ヒトスジシマカ**（青森県以南に広く分布）
- ネットアイシマカ（日本には常在しない）。

●症状

- 潜伏期間は2～15日間
- 突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹などがみられます。
- 多くの場合、発症しても一週間程度で回復しますが、ごくまれに重症化して出血やショック症状を示すことがあります。



●治療方法

- 特別な治療方法はなく、対症療法が主体となります。
- 現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

県内では、1955年（昭和30年）以降デング熱の患者報告はありませんが、媒介蚊であるヒトスジシマカは存在するため、デングウイルスの侵入に備え予防対策に心がけましょう。

■ 国内に生息するデング熱媒介蚊

ヒトスジシマカ

- 体長は約 4～5 mm
- 胸部に1本の筋があり、和名はこれに基づく。
- 県内でも身近にみることができる。
- **日中草むらや木陰などで待ち伏せし、ヒトが近づいたら吸血する。**
- 活動範囲は半径 50～100 m
- 県内では、特に4月～11月に活発に活動し、一年中存在する。

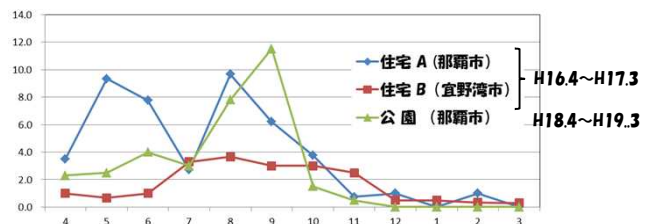
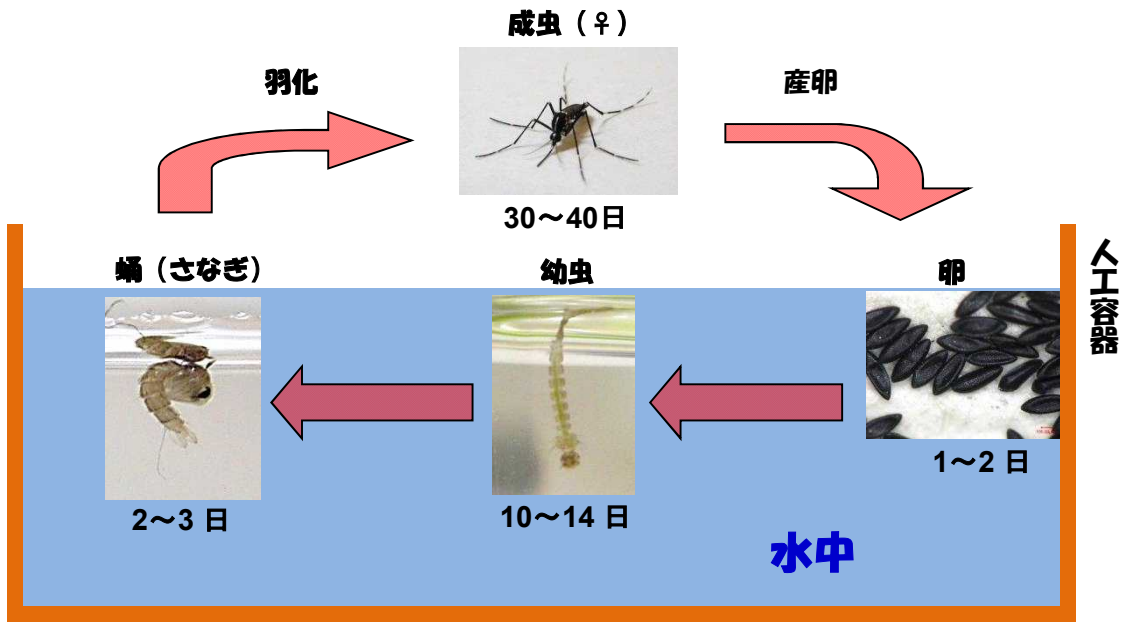


図. 県内住宅及び公園におけるヒトスジシマカの月別採集状況（成虫）

（沖縄県衛生環境研究所による調査結果）

写真：沖縄の衛生害虫（1986）

■ ヒトスジシマカの一生



- 人や動物からの吸血したメスの成虫が、人工容器等の水際の壁面に産卵します。
- ヒトスジシマカの卵は乾燥に強い。
- 水中で 卵 → 幼虫(ボウフラ) → 蛹 → 成虫 の順に成長します。
- ボウフラと蛹は、水中で発生するため「**小さな水たまりが発生源**」になります。

■ 蚊の発生源

蚊の**発生源**となる人工容器等の「**小さな水たまり**」



● 鉢の水受け皿



● バケツ



● 放置した空き缶等



● 古タイヤ



● 小さな水たまり



● 水がたまったブロックの穴



● お墓の花立て

■ 個人でできる感染予防対策（蚊の対策）

※ 現時点では、デング熱の予防ワクチンがないため、予防するためには日中に蚊に刺されないよう対策をとることが重要です。

【成虫対策】

1. 蚊が多くいる場所で活動する場合は、長袖、長ズボンを着るなどできるだけ肌を露出しないようにする。
2. 虫よけ剤を使用し、蚊を寄せ付けないようにする。
3. 網戸などで屋内への侵入を防ぐ。



【幼虫対策】

4. 住宅周辺の幼虫発生源となる「不要な水たまり」をつくらないようにすることが重要。
 - ① 植木鉢やプランターの水の受け皿は、週一回程度水を捨てる。
 - ② 屋外に放置されている人工容器を撤去する。
 - ③ 人工容器を雨のあたらない場所に移動する。
 - ④ 撤去できない物には覆いをかぶせる。

■ 相談・問い合わせについて

- 蚊に刺されて、発熱等の症状がある場合は、かかりつけの医療機関などにご相談ください。
- デング熱及び媒介蚊に関する相談・お問い合わせは、最寄りの保健所及び市町村にご相談ください。

